

第5回健康経営シンポジウム

琉球新報社は8日、那覇市泉崎の琉球新報ホールで「第5回健康経営シンポジウム」(協会けんぽ沖縄支部)

捉え戦略的に推し進める「健康経営」について、県内外の実践例を発信して普及を図るのが目的。企業の総務・人事担当者約20人が聴講した。「行動変容を起す」結果につなげる取り組みをテーマに、実践企業3社から担当者が登壇(1人はオンライン参加)。協会けんぽの事業報告、医療の専門家による講話もあった。

働く幸せ 企業力に

「共に成長」価値共有



真栄城 嘉剛氏

討議の視点

真栄城氏 弊社は総合物流業。コンビニ、スーパー、飲食チェーン向けの店舗配送がメインで、1日24時間365日毎日行っている。昼勤、夜勤、深夜勤とある職場だ。普通県内には常温倉庫だが、われわれは冷凍の倉庫もあり、そこはマイナス25度。その環境の中で業務をしていることもあって、われわれの会社では「健康」は大きなテーマになっている。

定着率と生産性向上 赤嶺氏 保健相談社員前向き 真栄城氏

企業の変化

湯地氏 セミナーを受けた社員が野菜を使ったレシピを持ち帰り「こんなのがあるよ」と家で話すと家族とのコミュニケーションが増える。そこから感謝の声をもらっている。社内からの声と、一番うれしかったのは「会社に来るのが楽しくなった」という反応。小さな会社でも日々の活動の中で無理なく続けられる取り組み、時には外から学べるという、うらやまを伝える環境も整えることなどがある。

上司の意識から改革 真栄城氏 無関心層の理解が鍵 湯地氏

留意点

湯地氏 カゴメで働いて20年。健康事業部というサービスを作る場所に、社内外含め健康の進め方、段取りや意識、全対策に取り組んだ。まずはお金を生むこと。真栄城氏 トラックやバスの業界では「健康」の先に「健康」を見据え、進めた。業界は「健康は自分管理するもの」だった。営業所の所長が運転手に「今日は忙しい。健康診断は次にして」というく

専門家講話

産業医活動で13社と契約し約2千人の健康管理に当たっている。会社の衛生管理者からクリニックの保健師に電話があると、必要なケースは私の指示で対応方法を検討する。健診後、高血圧を放置している人がい



田名 毅氏

家庭に1台血圧計を

監督に届ける。50人未満は、常時10人以上の労働者がいる場合、衛生推進者か安全衛生推進者の選任が義務。この点があり理解されていない。沖縄県の働き盛り世代の有所見率、血圧がコレステロール、肝機能、肥満が何にかかっている確率が非常に高い。年齢階級別死亡

パネリスト

- ▶ 専門家講話 田名毅氏 首里城下町クリニック第一 院長 (沖縄県医師会副会長)
▶ 事業報告 玉城雅人氏 協会けんぽ沖縄支部企画総務部アドバイザー
▶ 発言者 真栄城嘉剛氏 あんしん取締役執行役員管理本部長
赤嶺剛氏 スタプランニング代表取締役
湯地高廣氏 カゴメ健康事業部課長
与世田浩治 琉球新報社地域読者局「生活の窓口」

計画を日常業務に 赤嶺氏 大切な「健康の先」 湯地氏

まとめ

真栄城氏 働きやすい職場づくりにも取り組んでいて、昨年は県の「ワーク・ライフ・バランス認証」をいただいた。国の「働きやすい職場認証制度」は、物流業界の認証制度として沖縄で初めて取ったのがわが社。この創設された「二つ星」もわが社は第一号。皆の協力、意識の変化で達成できるものなので、こういったことも一つ一つ進めながら本当の意味での健康経営につなげていきたい。

目玉は「禁煙支援事業」

協会けんぽ報告

玉城雅人氏 本年度からの目玉が、各事業所で取り組む禁煙サポート事業だ。沖縄県薬剤師会、沖縄県保健医療福祉事業団と連携。禁煙する意思のある従業員を事業所・禁煙支援薬局・協会けんぽがサポート。禁煙パッチ2週間分は無償提供し、禁煙サポート手帳が従業員と事業所が連携し進捗を確認する



無償で提供する。3週間

禁煙サポート事業
・沖縄県薬剤師会、沖縄県保健医療福祉事業団と連携
・禁煙する意思のある従業員を事業所・禁煙支援薬局・協会けんぽがサポート
・禁煙パッチ2週間分は無償提供し、禁煙サポート手帳が従業員と事業所が連携し進捗を確認する